撮影提供：建築写真室

DESIGN WORKS

医療法人和葉会 まび記念病院／HI、ロゴマーク＆サインデザイン

医療におけるデザインの役割

―― ビジュアルデザインはホスピタリティを計るバロメーター ――

田中雄一郎／ブランディングディレクター、グラフィックデザイナー
クオデザインスタイル代表

近年医療分野でデザインが果たす役割が益々大きくなっている。病院という建築空間、運営システム、検査や手術のための精密機器、リハビリテーション機器、そしてロゴマークや診察券、サイン、ウェブサイトなど、デザインが関わるべきモノやコトはたくさんある。
特に医師、看護師、専門療法士の技量や医療機器の性能が目覚ましく向上した今日、患者の不安感を軽減したり、心のケアに重点を置くホスピタリティの向上が求められており、それには建築・インテリアデザインやロゴマーク、診察券やサイン・ピクトグラムなどの視覚から感性に訴えかけるビジュアルデザインが大きな役割を果たすと考えられる。
人は大自然の中できれいな空気を吸ったり、かわいい動物と触れ合ったり、美しい絵を観たりすると脳内には脳細胞を活性化し、体を元気づけるよい働きのホルモンが分泌されるらしい。さらに「病は気から」や「イメージ療法」という言葉があるように、病気と心は切っても切り離せないものであり、実際患者の精神・心理面、感情面が人間の免疫機能に大きな影響を及ぼしていることが現代の科学的研究により証明されているようだ。
健康な時でさえ、建物の古く、薄暗い病院ではそこにいるだけで病気になりそうな錯覚に襲われる。ましてそんなところでは患者にとって、自分の病気を客観的に認識し、治療に前向きに取り組むことは容易ではないだろう。だからこそ、患者の不安感を軽減し、円滑な治療を促すような医療環境が求められる。

倉敷市真備町にあるまび記念病院。コンセプト作成からロゴマークやステーショナリー、サイン計画までホスピタルアイデンティティを担当した。ロゴマークはまび記念病院の母体・医療法人和葉会の創立者である内科医の村上先生、泌尿器科医の徳永先生が共同で経営されているクリニック「むらかみ＆とくながクリニック」からきている。
コンセプトは「融合」「結びつき」つまり「＆」。脳、心臓、腎臓のトータルケアを目指し、患者一人ひとりと真摯に向き合い、延いては地域に貢献できる病院にしたいという想いを強く持たれている。病院＆患者。病院＆地域。これらの想いと感性を共通言語化つまりビジュアル化することによって、以下の効果が生まれる。
◎経営者が掲げる明確な理念が医師、看護師、スタッフの間で共有され、職場の円滑化、効率化、モチベーションの向上。
◎病院の明確な理念を地域に発信することは患者との信頼を高め、良質なコミュニケーションが育まれる。
◎上記のことから最終的に医療の質の向上、コミュニケーション不足による医療ミスの減少、患者の心理的満足にもつながる。

昨年春新築された建物の待合上部は300㎡もの大きな吹き抜けとなっており、トップライトから光が差し込む。3,4Fには緑溢れる中庭があり良い意味で病院らしからぬ優雅な空間となっている。これは少しでも患者に気持ちの良い空間を提供し患者が抱える本質的なストレスを軽減する狙いもある。通常出産の場合などを除き、病院へ行く機会のほとんどは何かしら負の要素を背負っている。そんな時に行くならせめてきれいで気持ちの良いところがいいし、病室から一歩廊下に出れば、壁が見えるより緑が目に入ってくる方がいい。
また通常サイン（案内表示）は無機質な書体で必要な情報のみしか表示されていないケースが多い。そんな中書体も少し柔らかいフォントとし、ピクトグラム（絵文字）を多用することでわかりやすさ、利便性に加え、空間をより優しい雰囲気として、病院と患者とを結ぶ大切なコミュニケーションツールとした。

しかし効率面で考えれば吹き抜けや中庭は空間構成上非生産的であり、デザイナーを登用すると費用は嵩む。患者が病院を選ぶ際の決め手としてはそれほど強くないかもしれないし、直接大きな利益にはつながりにくい。だが利益より患者や地域のためを思うその心、姿勢こそがホスピタリティである。ホスピタリティとは、周知の通り「思いやり」「心からのおもてなし」という意味であり、単なる「サービス」とは一線を画し、人間性や個性、感性などが色濃く反映される。したがって空間デザイン、ビジュアルデザインをどう考えるかはその医療施設がどれだけホスピタリティを重要視しているのかを計り知るバロメーターになると言っても過言ではない。
ホスピタリティは今後さらに深刻な高齢化社会を迎え、医療施設が益々必要とされていく中で、欠かせないコミュニケーションファクターの一つとなる。

CL／医療法人和葉会 まび記念病院　AD・D／田中雄一郎　サイン協力／三宅真人（トライマンデザイン）
PL／竹竝敏之（株式会社エムシージャパン）　設計・施工／株式会社荒木組　DF／QUA DESIGN style

医療法人 和葉会
まび記念病院
Mabi Memorial Hospital

田中雄一郎／Yuichiro Tanaka　QUADESIGN style（クオデザインスタイル）代表　www.quadesign-style.com

1975年岡山市生まれ。立命館大学理工学部卒業後、都市計画コンサルタントを経て、2004年妻とともにQUA DESIGN style（クオデザインスタイル）設立。同時にデザインを独学。現在岡山を拠点に活動し、企業、店舗、農園、医療施設、美術展などのブランディングデザインを中心に手掛ける。主な仕事に岡山大学のコミュニケーションシンボルデザイン&VI、福武教育文化振興財団のCI、岡山芸術回廊のVI、ルネスホールのVI、まび記念病院のHI、野の花農園のVI、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館「猪熊弦一郎」展のポスター・チラシデザイン、地中美術館、李禹煥美術館のパンフレットデザインなど。
また「地域を熱くする注目のデザイナーたち」「日本のロゴ&マークデザインvol.1&vol.2」「成功させるブランディングのプロセス」「費用vs効果の高いしかけのあるデザイン」「ショップ&ブランドの売るためのツール戦略とデザイン」など作品掲載書籍多数。主な賞に東京TDC賞Prize Nominee、JAGDA賞ノミネート、中国国際ポスタービエンナーレ2013 Finalist、東京ADC入選など。